

「季刊遠近」71号は内容が充実。浅利勝照「退職の日」は大学職員として定年まで働いた男性の鬱屈を描く。その屈託が心理描写で表現されるとさらによくなる。森重良子「詐欺事件」は題名のように現代の高齢者を騙す特殊詐欺事件を描く。本当の詐欺なのか、語り手女性の妄想なのかの仕掛けがおもしろい。難波田節子「丘の団地に住む家族」は郊外の戸建て住宅に住む主婦が、音信の途絶えた近所の知り合いの主婦の行方を心配する。心の病に罹った彼女の原因にもたどりつく。噂話を生かす手法で読ませるが、冒頭の数頁の説明が長い。最初から描写と会話文が始まると数段よくなる。力のある書き手である。小松原蘭「Sparrow」は二十四歳になる恋愛が奥手で劣等感にもさいなまれる女性が、気持ちの重なる男性にめぐりあう話。冒頭のケガした雀のように、「飛べない」ことが現代の課題を比喩している。

「金作」オニ六号

、又芸術時評